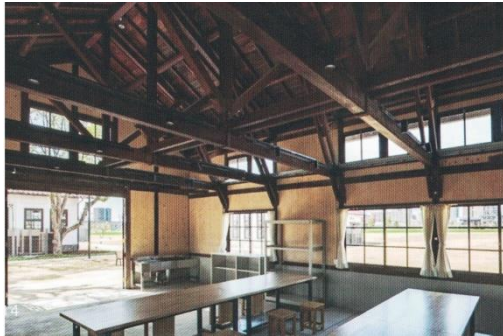


6_3. 環濠集落部の旧京大農場農具舎・農場の功績

○農具舎：昭和5年(1930) 建築 木造平屋建て 鉄板葺き

単純な長方形平面の南北棟です。腰壁はモルタル、腰上は土壁で漆喰仕上げ。木造のトラス架構が連続する小屋組みや、屋外作業に備えて東側の軒先を大きく伸ばした外観が特徴的な建物です。

内部はコンクリート土間で、壁



面には鋤や鍬を収納する農具架けが取り付けられていました。また南半分は天井が張られ、ロフトになっていました。

現在は体験館：勾玉づくりや土器づくりの歴史体験や工作などに利用できる「歴史体験室」様々なイベントや展示に利用できる「多目的スペース」があります。

京都大学高槻農場の功績

京都大学高槻農場は、農学と農業にかかわる実習教育と実証的研究を行う場として水田・果樹園などを備え、多くの農学研究者・農業指導者が育ちました。

VG 槻輪は、平成19年(2007)「わがまち紹介」活動で京都大学本農場を訪問し、蔬菜農場・水田・果樹園の各部門の先生に現場で詳細な説明をして下さいました。

農業の品種改良には、何年も何年もかかります。果樹になると数十年単位で研究が必要とお聞きしました。その農園の歴史は、弥生時代の安満遺跡の保護の歴史とほぼ重なります。



安満遺跡は、京都大学付属農場の開設工事で発見されて以来約90年間、農場が存在してきたことで宅地開発をまぬがれ、地下の遺構が良好に保存されてきました。

また、昔から変わらず居住に適した地形であったことから、弥生時代の居住域に農場建物群が設けられており、時代を超えて土地利用が引き継がれています。

このような、「弥生の居住域」と「近代建物群」との歴史的な重層性は、安満遺跡のオリジナリティ(個性)の一つです。

左の写真：本館玄関の庇の持ち送りの彫刻は、南洋風の彫刻だそうです。

右の写真：玄関ロビーの2階への階段の手すり親柱は、逆円錐状です。これほど特徴的デザインを昭和の初期に採用していました。

この昭和初期の木造建築物がリノベーションによって、魅力的な歴史スペースとして新たに生まれかわりました。

